

自然を楽しく学ぶ工夫

1.はじめに

私は「生田緑地」と「かわさき宙と緑の科学館」を訪れ、生田緑地で見ることのできる自然事象や科学館での子どもが展示を楽しく鑑賞することができる工夫について観察した。本レポートではこれらを観察、調査してわかったことや気づいたことをまとめる。

2.生田緑地での自然事象

2-1.メタセコイア

生田緑地の入り口を道なりに真っ直ぐ行き、かわさき宙と緑の科学館の少し先まで歩くと、背の高い杉のような木が並んだ道が続いていた。図1はその様子である。



図1:生田緑地のメタセコイア

この木は「メタセコイア」というヒノキ科の一種である。私が生田緑地へ行った日は気温30℃越えの真夏日で日陰のない場所では汗が止まらないといった暑さだった。しかし、背の

高く、ぎっしりとまとまったメタセコイアが続く道ではメタセコイアが日陰をつくっていて、涼しい風が通り、体感温度もだいぶ下がった気がした。自然の避暑地のように視覚の情報も相まってとても涼しい場所だった。

2-2. 奥の池

メタセコイア林を少し進んだところには「奥の池」という小さな池があった。池の周りにはカエデの葉があり、秋には紅葉が見られそうだった。図2は池の前にあった「水の色は植物プランクトンからのメッセージ」という看板である。

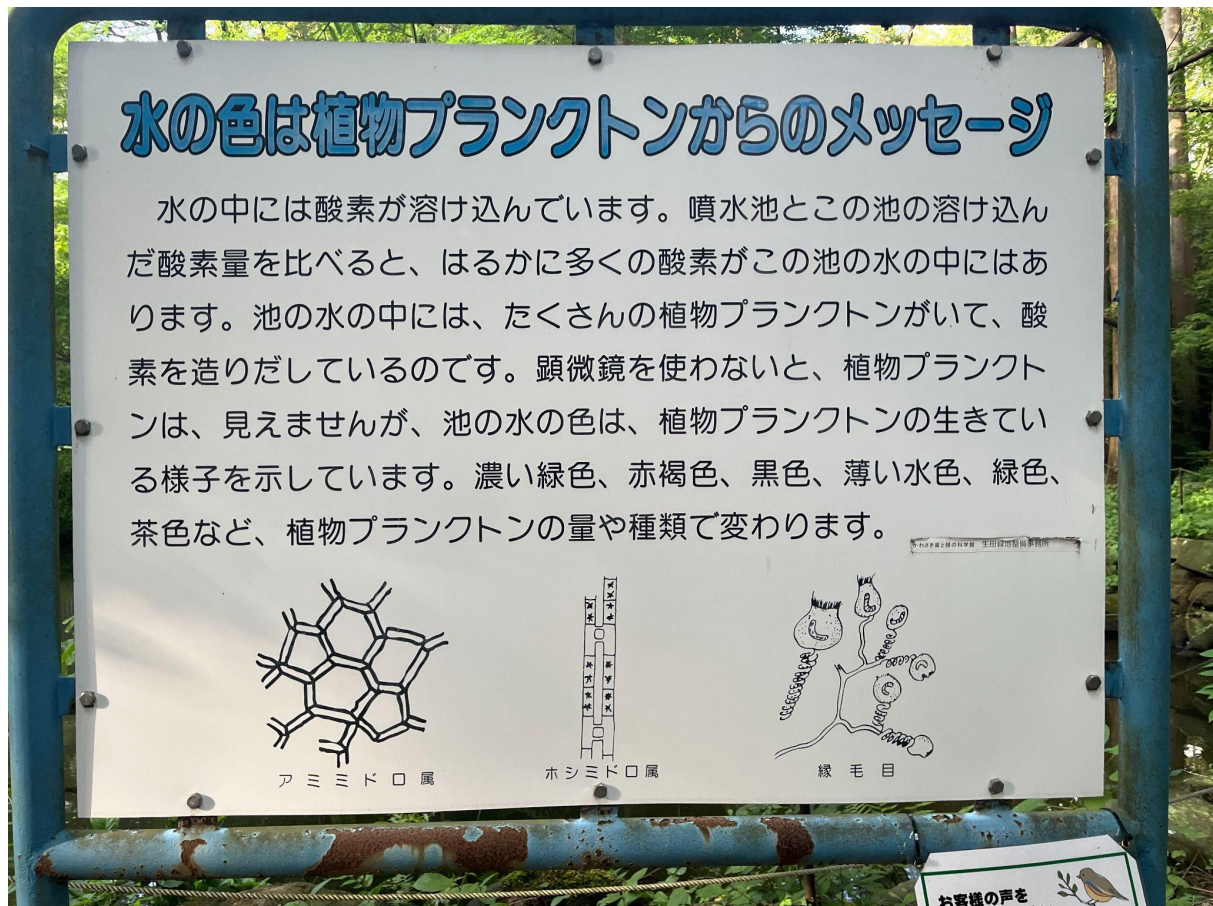


図2:「水の色は植物プランクトンからのメッセージ」の看板

ここには植物プランクトンの量や種類で池の色が変わるという内容が記載されていた。奥の池は緑色に見えたので緑藻の仲間が多く存在しているのではないかと考えられる^[1]。また、私は奥の池で唯一、亀を肉眼で見ることができた。亀の種類まではわからなかったが3匹程見ることができた。

3. かわさき宙と緑の科学館での工夫

3-1. プラネタリウム

プラネタリウムでは子ども向けの回と通常の回があり、私は時間の都合上通常の回を鑑賞した。しかし、お客さんは親子連れが多く小さい子どもも多くいた。子ども向けの回ではないが小さい子どもが多くいることから解説がわかりやすく優しい言葉遣いになっていると感じた。解説の中に天の川や航海などの話があったが、それらをお客さんが知っている前提ではなく、さりげなくわかりやすい説明を入れて話していたことが印象的だった。

3-2. 科学館の展示

科学館には街中に生息する生き物や植物を中心に展示が行われていた。展示の仕方にはそれぞれ小さい子どもも楽しめる工夫がされていた。ここでは中でも私が特に面白いと思ったものを紹介する。まず最初に目に留まったのは図3の展示の中にクイズがあったがその答えは何個かあるシートをめくって答えを探すものだった。



図3: シートをめくって答え合わせするクイズ

シートにはそれぞれ異なる植物の写真があり、めくると正解か不正解かがわかる。実際に小さい子どもがめくって楽しんでいる様子を見て、その子はクイズを楽しむというより「めくる」という行為自体を楽しんでいるように見えた。あとからお父さんがクイズの問題文を説明して、この仕組みの意味も教えていた。

次にボタンを押すと動物の鳴き声が聞けるという仕組みがあった。私はどんな鳴き声なのかという興味からそのボタンを押してみたが、小さい子どもはその逆でボタンを押してみたいという興味が先で、押したら鳴き声がするという仕組みにさらに興味が湧くのではないかと考えた。何かはわからないがとにかく触ってみるということが子どもにとっては展示をより楽しいと感じさせるのではないかとと思う。

最後に引き出しを開けると標本が沢山出てくるという仕組みも印象的だった。図4はその様子である。



図4:引き出しをあけると標本が出てくる仕組み

ここでもこの引き出しを楽しむ親子がいたので少し観察してみると、最初は引き出しを開けることを楽しんでいた子どもが徐々にこっちの引き出しには何が入っているのかと興味の視点が引き出しから標本へと移っていた。また、上記の二つのように実際に触れて展示を楽しむことができることに加え、多くの展示品を限られたスペースで展示できるというデザイン面でのメリットもあると感じた。

これらに共通するのは全て低い位置にあるということだ。私たちにとっては少し低いので見逃しそうになるところもあったが、小さい子どもの視点からではちょうど目の高さにあるため見やすくなっていた。しかし、全ての展示が低い位置にあるのではなく天井の高い空間を活かして壁には高くまで展示があり、迫力も感じられた。私の身長でも迫力を感じたので、小さい子どもにとっては更に迫力があり印象に残るのではないかと考えた。

4.おわりに

今回、生田緑地とかわさき宙と緑の科学館を調査し、あらゆるところに親子で楽しめる工夫がされていると感じた。大人も子どもも楽しめる空間を演出することには多くの工夫があり、どちらかの視点だけではなく両方の視点から考えることが大切だと考えた。科学館では自然についてを学び、科学館の外に出ると生田緑地で実際に自然を見ることができるというシステムが、子どもにとっては楽しみつつ自然と学びへ繋がっていると感じた。

参考文献

[1]「プランクトンからのメッセージ」

<https://www.ds-j.com/nature/science/plankton/what/main/1message.html> (2023/8/18アクセス)